



【遊環付香合】

太田 初夫

27年前に1カ月弱で制作した本作品は、メノウの一つの原石から作り上げており、得意とする精密彫りを活かした作品である。当時、遊環を鎖のようにつなげた作品はなく、人を驚かせたいという気持ちから鎖鎌を作ろうと思ったことがきっかけだという。ただ、当時の先輩のアドバイスもあり鎖鎌ではなく本作品を制作することにした。遊環は原石を輪状に摺ったものを二つ作った後、固定されてつながっている部分に研磨剤をつけ針金で穴を開け上下に動かして切り離していく。この作業を遊環の数だけ繰り返す。少しでもヒビが入れば最初からやり直しになるプレッシャーの中制作した。香合もふたが容器にはまるように調整する必要があるため、技術が求められるが、本作品の見どころはやはり遊環である。

【サイズ】 70mm×48mm×40mm 【素材】 メノウ



山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階
https://www.pref.yamanashi.jp/yjm/
開館時間：10:00～17:30(最終入館17:00)
休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、
その他、臨時に開館・休館することがあります。
入館料：無料
駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場
(来館者は1時間無料)

太田 初夫

craftsman jewelry file.25
hatsuo ota
2021 December

craftsman jewelry

Vol. 25

2021年12月発行

プロに評価され賞を取るよりも、
石を知らない人にいいと思われる
作品を作りたい

偶然か必然か

この世界に入ることが偶然か必然かどちらだったか今でも分からないという。太田の父親はパン職人として自宅でパンの小売りをしていた。そのため、栄養士の資格を取得すれば家や父親の手伝いもできるのではと考え、短大の栄養科に入学した。卒業までに無事資格を取得したが、将来この資格を活かした仕事に就くか、それとも別の道に進もうか悩んでいた。きっかけは、宝飾業界で仕事をする父親を持つ幼馴染みの家に遊びに行った時だった。

進路について雑談していた時、「悩んでいるなら彫刻をしたらどうか」と言われ、その父親にも「興味があるなら工房を紹介する」と誘われた。元々絵を描いたり粘土で何かを作ったりすることが好きだった太田は、実際に水晶を摺ってかたちづくられていくところを見て、「こんなことができるのか！面白い」と魅了された。その場で工房を紹介してもらい、翌日には工房に向かい就職が決まった。それが、現代の名工や黄綬褒章を受章した詫間正一氏のものであり、以後

としての真髄を見た気がした。

太田は自分の作りたいものが何かと考えたとき、それは遊び心を大切しながら、人の目を引いたり人が驚いたりするような作品だった。

実際、太田はメノウで装飾用の短刀を制作しているが、柄の部分はあえて木材にしている。メノウで短刀を制作する太田の技術も美しさながら、柄を木材にすることで刀本来のさしさを引き出しており、見る者に大きなインパクトを与えている。

人とのつながりから
生まれるもの

太田が長年貫いている仕事のスタイルがある。それは、自分の得意とする仕事の依頼は当然引き受けるが、不得手な仕事の依頼があった場合はその仕事を得意とする職人を紹介するということだ。そうすることで作品としての完成度が高まると考えている。

このスタイルを続けていくと、今度は逆にその職人を經由して自分の得意分野の仕事が来るようになり、自ずと人脈ができてくる。このように、太田は人とのつながりを大事にしている。

そのため、現在、太田のもとにはあらゆる方面から仕事の依頼が来る。タンブルに穴をあける依頼から国宝や重要文化財の修復の依頼まで実に多様である。

その中で特に印象的だったのは、国宝である仏像の玉眼の制作依頼だった。仏像の目の部分に水晶をはめ込んで実際の目に近い輝きをもたせるものだが、仏像本体は削ることができな

太田は詫間氏最後の弟子として師事することになる。

芸術家としての真髄

詫間氏は仕事に関してはもちろんのこと、礼儀作法に関しても非常に厳しい人で、太田の兄弟子も恐れる存在だった。しかし、太田に対しては年齢が40ほど離れていたせいもあったのか、優しく接してくれ、時には太田の好きな作品を作らせてくれることもあった。

学生時代から絵を描くことが好きで手先が器用だった太田は、働き始めてわずか半年、甲府市工業まつり技能コンクールで出した作品が銅賞を受賞した。翌年は同コンクールで銀賞を受賞するなど詫間氏のもとで着実に腕を磨いていった。

太田は、詫間氏から自分の作りたいものを作るのが芸術家だと教えられた。詫間氏は苦労して作った箇所も全体を見て不要だと思えばすぐに削ってしまったという。自分の納得する作品を作ることにこだわっており、まさに芸術家

いため、目の縁に寸分の狂いもなく作り上げていく必要がある。それを京都に送り仏像にはめ込み、少しでもはまらなければ数日後にやり直しの依頼がきてしまう。仏像の表情を生かすように目の繊細さや柔らかさを細部にわたって彫り上げていき、それが一度ではまったときには依頼者も非常に満足してくれたという。

石に対する思い

水晶美術彫刻は、まだまだ一般的に知られていないと太田はいう。例えば、ダイヤモンドは知名度が抜群に高く、多くの人がダイヤモンドのリングやペンダントを知り、興味を持っている。そしてその人たちの中にそれを購入したいと思う人がいる。水晶もダイヤモンドのように多くの人に興味を持ってもらいたいと思っている。幸い、水晶は他の石に比べ知名度があるため、どうすればそれを多くの人の目に留めることができるかが重要だという。そのため、太田は素人の方に実演を見てもらう機会があると、必ず実演の内容を事細かく説明し、理解してもらったうえで技を見てもらうようにしている。

興味がなくてもいい、購入したいと思わなくてもいい。ただ、見てもらえれば興味を持ってもらえるポイントがあるかもしれない。猫の彫刻があれば、猫好きな人であれば購入したいと思うかもしれない。一度見てもらうことで、彫刻のことを知り、もっと知りたいと思ってもらうことができる。石に対する思いを語りながら太田は今日も人の目を引く作品を作ろうと考えている。



太田 初夫 (おおた はつお)

- 伝統工芸士
- 第34回、第57回水晶彫刻新作展 日本伝統工芸士会 会長賞
- 第47回水晶彫刻新作展 山梨研磨宝飾新聞社賞
- 第51回、第56回水晶彫刻新作展 伝統的工芸品産業振興協会賞
- 第57回水晶彫刻新作展 第二部作品「装身具類」 甲府市長賞
- 第59回水晶彫刻新作展 甲府商工会議所賞、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

太田貴石工芸
甲府市丸の内 3-19-12
Tel:055-222-3288